

「神の家族」

司式：

奏楽：

《神の招き》

前奏 『Poco allegretto』 セザール・フランク
招詞 レビ記26章6節 a
賛美歌 464

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 イザヤ書54章1～8節 (旧約1135頁)
エフェソの信徒への手紙5章21～6章4節 (新約351頁)

子ども説教
教会学校奉唱 『いのってごらんよ わかるから』
交読詩編 127編1～5節 (155頁)
賛美歌 特別曲『長崎の空は』
説教 「神の家族」 八木浩史牧師
祈禱
賛美歌 544

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献金 献金当番
祈禱
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 25
祝福
報告
後奏

礼拝当番： (役員：) 献金当番：
音響： 映像：

『イザヤ書』54章は、バビロン捕囚の末期において、預言者（第二イザヤ）を通して、エルサレムに告げられた預言です。都エルサレムから、多くの若者たちが捕囚として連行されました。働き手が失われ、廃墟となったエルサレムの住民は「子を産まなかった女」「産みの苦しみを知らない女」「夫に捨てられた女」と言い表されるように、貧困、孤独、将来への絶望という苦難の中にあつたのです。それは彼らが主なる神に背いてきた罪の結果でした。しかし主なる神は「あなたの天幕の場所を広くし、住まいの幕を惜しまず広げ」よと命じられます。なぜなら、もうすぐバビロン捕囚から人々が帰って来るからです。主なる神は御自身を、エルサレムに対して「あなたの夫」だと言われます。主は「ほんの僅かな間、私はあなたを捨てたが深い憐みをもって、あなたを連れ戻す」と宣言し、その御言葉のとおり捕囚から解放し、都を復興させられます。

『エフェソの信徒への手紙』では、家庭について語る前に、「キリストに対する畏れをもって、互いに従いなさい」と勧めます。夫婦、親子の関係は、相手を自分の思い通りにするための関係ではありません。キリストが私たちを愛し、御自身を献げてくださったように互いを尊び、仕え合うことが求められています。私たちの家庭には、喜びだけでなく、すれ違いや傷つくこともあります。しかし神はそのような私たちの家庭にも信仰の大切さを示されます。教会もまた「神の家族」です。血のつながりを超えて、キリストによって集められた者たちが、互いに仕え、赦し、支え合うのです。家庭も教会も、神の憐れみによって集められ、愛されているからこそ、「神の家族」なのです。